



ほんなこてゆたたり

文責 校長 平井 敏博

【令和6年度学校教育目標】
大人も子どもも、目指すは“とことん学び続け、とことん学び合う人”
～生涯学びの基礎づくり～

相手意識や社会性、感性を学ぶ ～学校での様々な体験を通して～ 【登校班編】



本校には、33の登校班があります。各班の実際の様子を知りたくて、朝、いっしょに歩くことを心がけてやっています。あちこちで平井が突然出没しておりますので、お許し下さい。

いっしょに登校していると、朝の登校も、あらためて“学びの宝庫”であることを実感します。

まず、集合場所での様子です。いろいろなごたごたもあります。集合時間に集まらなかったり、待てど暮らせど来なかったり、時間前にさっさと出発してしま

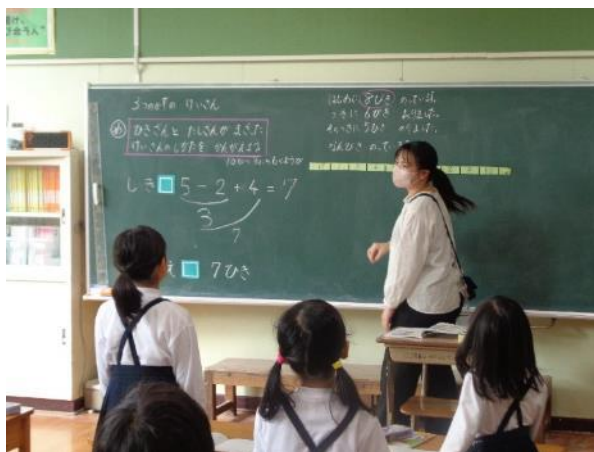
ったり、と様々です。連絡がうまくいっていなかったり、その場で時間の確認がしにくかったりすることも原因のようです。一見、面倒くさい状況にもなってしまいますが、これこそが“絶好の学びの機会”ではないでしょうか。

子ども達は、これから様々な集団、組織、社会に関わっていくわけです。メンバーと連絡を取り合ったり、時間を気にして行動したりすることは、避けては通れません。面倒くさいようですが、体験を通してしっかり学ぶ必要があります。

子ども達にとって、まだまだ大人の助言やサポートが必要です。いつ見てもそろって登校できる班もあれば、苦勞をしている班もあります。誉めたり、応援したり、具体的な指導をしたり、学校と家庭、地域で力を合わせていきましょう。

※ 紹介している写真は、季節を体感できる風景や、登校経路に時計の設置がされていて、子ども達のためなのかなと思って思わず写真に収めたものです。

【学校生活のルールやマナー編】



学校では、物をそろえて整頓したり、決まった場所に提出したりすることが多くあります。掲示物の扱いも大事です。話を聞く場面、二人で向かい合って話す場面、みんなの前で発表する場面なども様々出てきます。私語（おしゃべり）のコントロールは、一斉学びの多い学校において必須の習慣となります。

学校生活において大事なルールやマナー、習慣を身に付けるために、子ども達自身が体験を通して学んでいるわけです。得意や苦手などの個人差があるのも当然です。根気強く取り組みます。学校と家庭の連携が不可欠です。このことが、社会に出ていく子ども達の財産になると考えています。